



頭部にけがを負った被災者の縫合手術をする三宅和久医師(左) Ⅱアンジャール(AMDA提供)

## インド西部大地震 AMDA派遣チーム

# 写真HPで公開

インド西部大地震の発生から一週間を迎えた二日、国際医療ボランティア団体AMDAが被災地へ派遣した医療チームから、現地の被害の様子や治療活動の様を撮影した写真が、岡山市榴津の本部へ届いた。倒壊した建物などを生々しく伝え、AMDAは同日からホームページで写真を公開している。

## 治療、被害生々しく

の手術風景など四枚。一月二十九日に現地入りした岡山市の三宅和久医師らから二日未明、電子メールで送られて来た。

同日午前には三宅医師からAMDA本部に国際電話が入り、「救援活動は活発化してきたが、骨折している患者が多く、今後よりハシリを含めた医療面でのケアが必要だ」と現地の様子を話した。

AMDAは一日には毛布、医薬品などの救援物資や第二次救援チームを乗せた航空機を岡山空港から被災地に派遣している。

跡形もなく倒壊した建物。地震の被害の大きさを物語るⅡブリジ(AMDA提供)



は <http://www.amda.or.jp>